

配布先: 文部科学記者会、科学記者会、名古屋教育記者会

2026 年 1 月 23 日

報道機関 各位

介護は負担だけではない？ 家族介護者の生活の質向上へのモデルを提唱 ～肯定的および否定的認識への理解が介護者支援の充実に寄与～

【本研究のポイント】

- ・家族を介護している人(家族介護者)の“介護の肯定的認識および否定的認識”を共に検討。
- ・介護の否定的な認識が高いことは、家族介護者の生活の質を低下させる。
- ・介護の肯定的な認識が高いことは、否定的な認識を低下させる。
- ・否定的な認識と肯定的な認識を共に評価することで、家族介護者の生活の質を高める支援が可能となると考えられる。

【研究概要】

名古屋大学大学院医学系研究科の星野 純子 准教授、桜井 美果 博士後期課程学生の研究グループは、家族を介護している人(家族介護者)の介護に関する認識や生活の質について、構造方程式モデリング^{注1)}を用いて検討しました。その結果、家族介護者が抱える介護役割の負担や困難といった否定的認識、および介護から得られる喜びといった肯定的認識は、家族介護者自身の生活の質に直接的・間接的に関連するという仮説モデルが支持されました。

本研究は、看護や医療が必要な者を介護している家族を対象に、介護や支援状況の他、介護の否定的および肯定的認識の両認識と生活の質を横断的に調査しました。その結果、①家族介護者の否定的認識が高まるほど生活の質が低下すること、②介護の肯定的認識が高まるほど否定的認識が低下すること、③訪問看護師からの支援や介護サービスへの満足感などが高まるほど、介護の肯定的認識が高まることが判明しました。

本研究の結果は、家族介護者を支援する立場の者が介護者への理解を深め、生活の質を高める支援策を検討するための一助となることが期待されます。

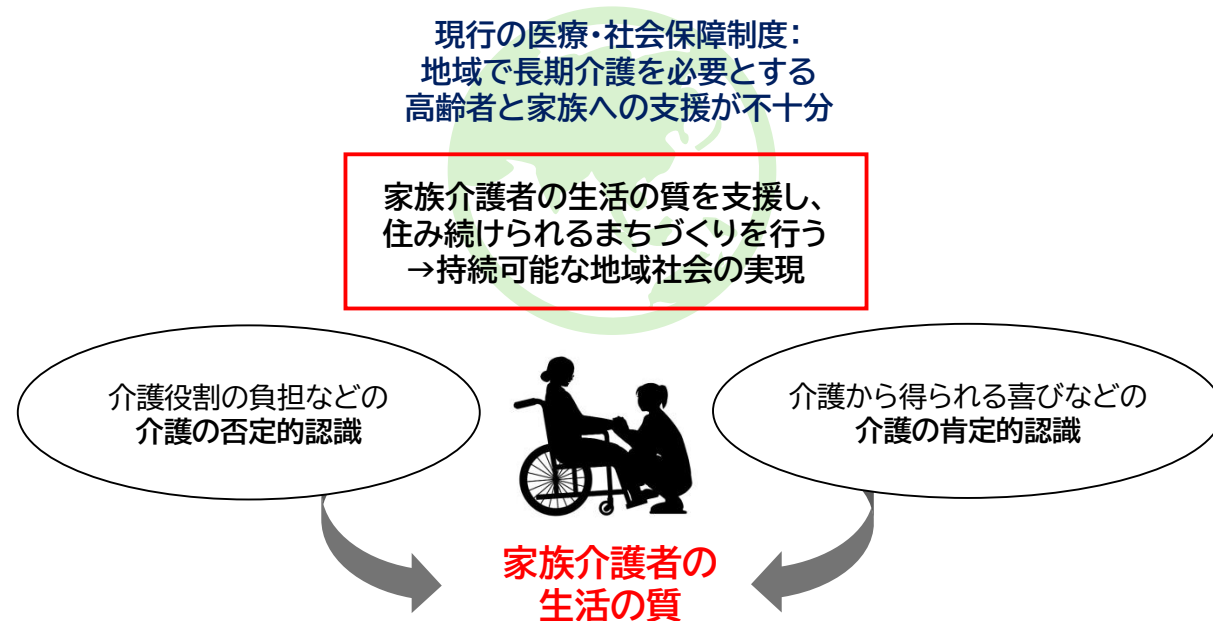
本研究成果は、2025 年 6 月 16 日付の国際学術誌『*Clinical Journal of Nursing*』に早期掲載されました。

【研究背景と内容】

世界的に高齢化が加速する中、人々と家族、地域社会が健康的に歳を重ねることを社会全体でアプローチするための取り組みが求められています。しかし、世界各地における多くの現行の医療・社会保障制度では、長期介護（支援を受けながら生活すること）を必要とする高齢者やその家族に、介護サービスや支援ができていない現状があることが報告されています。介護を受ける人とともに、家族介護者の生活の質を確保し、住み続けられるまちづくりを行うことは持続可能な地域社会の実現に資するものです。

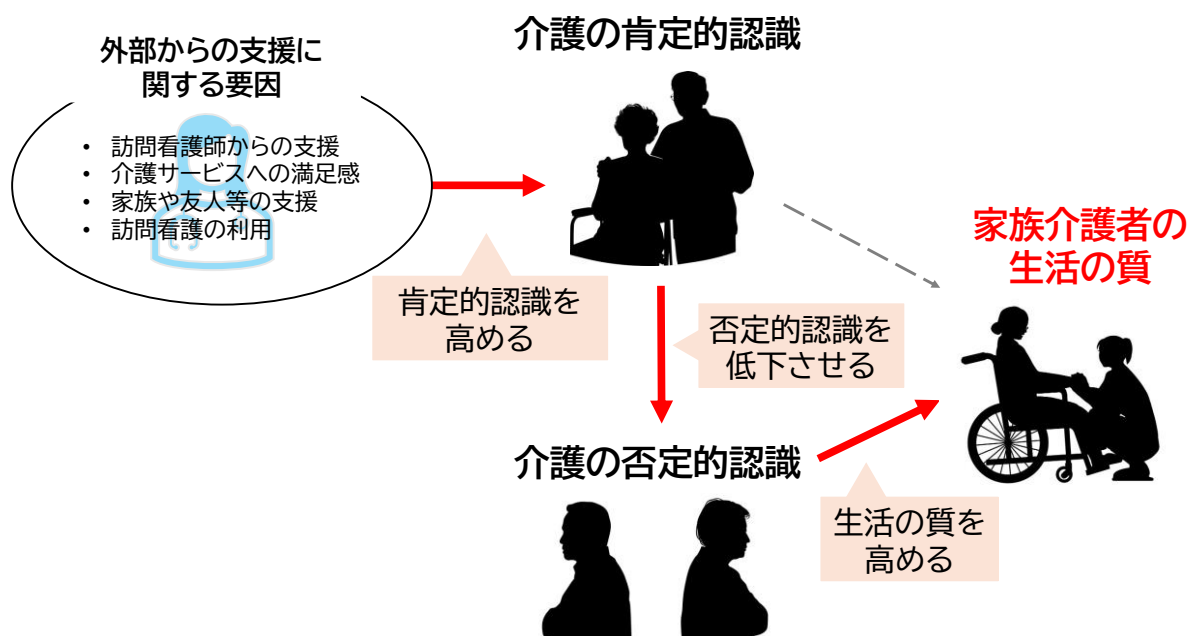
家族を介護する必要が生じた介護者は、介護の役割に適応するために生活を再構築することが報告されています。家族介護者の介護への適応を評価することは、家族介護者の理解と支援を考える際に重要となり、家族介護者の生活の質を改善する方法を検討することに役立ちます。

これまでの家族介護者の介護に関する認識と生活の質の関係性についての研究によると、介護役割の負担を感じるなど否定的認識が高いほど、生活の質が低くなることが報告されていました。さらに、家族介護者は介護へ適応する過程で、介護経験を肯定的にとらえ、介護を通じて得られる喜びを認識する側面があることが指摘されています。このように、これまでは介護の肯定的認識・否定的認識と生活の質について、それぞれ単独で生活の質に関連することが検討されており、両認識を共に評価した研究は数少なく、十分に検討されていませんでした。



そこで本研究グループは、家族介護者の介護の肯定的認識と否定的認識を共に配置した介護への適応過程に関する仮説モデルを検討するために、訪問看護サービスを利用している療養者の家族介護者を対象に横断的に無記名自記式質問紙調査を行い、168部を解析しました。その結果、介護役割の負担を感じるなど否定的認識が高いほど、家族介護者の生活の質が低下することが明らかとなりました。さらに、介護から得られる喜びといった肯定的認識と否定的認識は有意な負の関連があり、肯定的認識は、生活の質へ間

接的に関連することが示されました。つまり、介護の肯定的認識を高めることで、否定的認識が低下し、介護者の生活の質を高める支援につながる可能性が期待できます。また、介護の肯定的認識は、訪問看護師からの支援や介護サービスへの満足感といった外部からの支援と直接的に正の関連があり、支援を高めることにより肯定的認識が高まり、否定的認識を低下させることへつながることが明らかになりました。



【成果の意義】

本研究により、介護者が介護に適応する過程において、介護役割の負担など否定的側面のみに着目するのではなく、介護から得られる喜びといった肯定的な側面も共に評価する重要性が示されました。家族介護者と関わる医療従事者や地域のケアスタッフは、支援する介護者の両認識がどのようなバランスであるのかを判断しながら、支援を継続することで、家族介護者の生活の質を高める可能性が期待できます。

さらに、訪問看護師からの支援、介護サービスの満足感など外部からの支援が高いほど、介護の肯定的認識が高まることが明らかとなりました。家族介護者の中には、介護を自分の役割であると強く捉え、支援を求める、専門家とともにいう発想に至らずに介護を行っている場合もあります。介護者自身が協力を求めても良い立場であることを自覚できるよう、社会に対する働きかけも必要です。

家族介護者の介護の肯定的認識・否定的認識を含めた介護への適応過程の理解は、介護者支援の充実や必要なケアサービスの導入に役立つとともに、療養者とその家族が住み続けられるまちづくりの実現に寄与すると考えられます。

本研究は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2125 の支援のもとで行われたものです。

【用語説明】

注 1) 構造方程式モデリング:

構成概念(その存在を仮定することによって複雑に込み入った現象を比較的単純に理解することを目的として構成した概念)や観測変数の性質を調べるために集めた多くの観測変数を同時に分析するための統計的方法(豊田, 1998 共分散構造分析【入門編】)。

【論文情報】

雑誌名: Clinical Journal of Nursing

論文タイトル: Positive and Negative Appraisals and Quality of Life Among Family Caregivers of Adults With Formal Long-Term Care Needs: An Exploration of Model Using Structural Equation Modelling

著者: Mika Sakurai¹, Junko Hoshino²

¹ Nagoya University, Graduate School of Medicine, Department of Integrated Health Sciences, Course in Nursing, Doctoral Programme, Nagoya, Japan

² Nagoya University, Graduate School of Medicine, Department of Integrated Health Sciences, Nagoya, Japan

DOI: 10.1111/jocn.17849

URL: <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/jocn.17849>



東海国立大学機構は、岐阜大学と名古屋大学を運営する国立大学法人です。
国際的な競争力向上と地域創生への貢献を両輪とした発展を目指します。

東海国立大学機構 HP <https://www.thers.ac.jp/>

